

またまた壕発見

棚原の区画整理地内

なれば、沖縄戦の証言もその風化の速度を速めることでしょう。

者は再び前線へ、傷の深い者は病院壕（現キリスト教短期大学のある丘）へ送られたとしました。そのことは町史にも記載されています。

しかし、医務室はもつと大きかったという話や、医務室近くに負傷兵を担送する防衛隊あります。さらに、横穴が設けられ、奥の残り一〇メートル部分は狭く、奥にいくにしたがって上がっていくようなつくりになっています。また、灯りを置いたと見られる小さな穴まで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

町史係では、これまで戦跡壕考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

町史係では、これまで戦跡壕考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

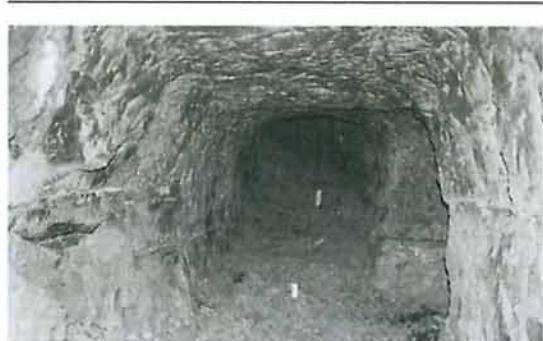
考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

考古学という立場から戦跡壕調査を行つてきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

改めて『西原町史』第3巻、資料編2「西原の戦時記録」を読みかえし、激戦地・西原を物語る壕の存在の重要性を感じたのでした。

追記：今回も、区画整理課職員、丸政土建や南城技術開発、伊波精吉さん、新垣光子さん、喜屋武久真さんら多くのみなさんにご協力をいただきました。ありがとうございました。

△右側に横穴（奥行き0.8mで行き止まり）があり、奥へいくにしたがい上っている



△右側に横穴（奥行き0.8mで行き止まり）があり、奥へいくにしたがい上っている

測量を行つて、壕内を幅を測ります。二メートル間隔に基準点をもうけ、高さや幅を測量します。

次の作業は、実際に壕内を測つて行きます。二メートル間隔に基準点をもうけ、高さや幅を測量します。

これらの作業とともに、壕についての情報を集めます。

測量と遺物収集で得た情報のほか、聞き取り調査を行つたところについての情報を集めます。

それは、聞き取り調査では証言を得ることができるように、現地での確認作業がとても困難であるということでした。

戦後五〇年余り経過したところから五メートルまでは重機でさらいましたが、その後はスコップを持つての手作業となりました。途中、スコップが金属片にあたり、拾い上げてみると手榴弾だったなど

次回の作業は、実際に壕内を測つて行きます。二メートル間隔に基準点をもうけ、高さや幅を測量します。

ささらに壕内の埋もれた部分の土を取り除き、遺物を確認して行きます。この作業は入

聞き取りによるところの壕は、前線から送られてくる負傷兵を応急処置した医務室として使われていたのではないかと

私たちには今、つまり壕が存在するうちにその作業をやらなければいけません。壕がなく

▽字小波津四百六番地、小波津ミエ子さんが、故夫弘

夫長徳さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ五万円。

▽字我謝二百四十一番地の二二、上地信子さんが、故夫長徳さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ五万円。

▽字小波津四百六番地、小波津ミエ子さんが、故夫弘

夫長徳さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ五万円。